

SENDAI
INTERNATIONAL
MUSIC
COMPETITION
for Piano & Violin



仙台国際音楽コンクールニュース

コンチエルト Concerto



Vol.7-7

(2019.9.12発行 第7回コンクール関連 第7号)

山形交響楽団ソロ・コンサートマスター

かずたか
高橋和貴 さん インタビュー

第7回仙台国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門予選で、山形交響楽団のチームリーダーとして出場者をサポートされた高橋和貴さんにお話を伺いました。

どのような経緯で山形交響楽団（山響）に入団されましたか。

当時、私は海外に拠点を置いていました。国内でも幾つかのオーケストラにコンサートマスターとして客演で呼んでいただいた機会がありました。その中の一つが山響で、当時の音楽監督であった飯森範親さんからオファーがあり、トントン拍子に話が進んだ感じです。

コンクール予選はどのような印象でしたか。

もちろん、サポートするという役割もありますが、一人一人の出場者の方たちの音楽の作り方に寄り添う、あくまでもサポートするだけでなく一緒に演奏するという意味では、音楽観を共有するにあたり、短いリハーサルの中でどこまでできるかということもありました。出場者の数だけいろいろなアプローチがありました。

印象に残った出場者はいらっしゃいましたか。

面白いなと思ったのは、限られた40分の中で、自分のためにひたすら何回か練習して慣れていくたいという方と、かなり細かいところについてもこうしたいああしたいとかなり強いアプローチをされる方と、いろいろいらっしゃったのが、とても印象的でした。

コンサートマスターとして出場者とオーケストラとの仲介をするにあたって心掛けたことは、何でしょうか。

一番心掛けたのは、やはりステージの中で一番良いパフォーマンスができるように極力、不安やストレスを減らしてあげることと、できる限り皆さんに寄り添うことです。ただ音楽的にはこうしたいと思うこともありましたが、一人一人と向き合うように意識しました。コンサートマスターの役割は、通常のコンサートと変わらず特にコンクールだからどうということは無かったと思います。

どんなご趣味をお持ちでしょうか。

音楽が趣味と言いたいところですが、趣味は特にないです。あえてオフの時は全く違うことをしたりしてリラックスしています。何もしないこともあったり、仲間と気軽に出かけたり、遠出してみたり、音楽もよく聴いたりしています。クラシック以外の曲も聴きます。

山形の印象はいかがですか？

いいですよね。何もないという感じが、何かを探すというのがいい。何でもあるわけではないですが、食事が美味しい、空気がきれいだと、いろいろあると思います。町の規模に対して音楽に熱心で、層も非常に厚いと感じます。このような町はなかなかないですね。



高橋和貴さん

山響と仙台フィルの違いについては？

オーケストラの規模が違いますので、普段演奏している曲目も違っていると思いますが、仙台フィルとは、長いお付き合いをさせて頂いております。その間いろいろメンバーも変わったりしていますが、それでも仙台フィルの良さは変わりません。きちんと引き継がれている上に新しい風（メンバー）が入ってきていて、どんどん研ぎますされた音楽になってきています。今回の予選でも、仙台フィル、山響が分かれて演奏するところに、出場者の演奏を聴くだけでなくオーケストラの違いも、楽しんでいただけたのではないかと思います。

今回の新たな試みで出場者のコンサートマスターとしての課題もありましたが、この点についての感想をお願いします。

とてもユニークな選曲がされました。また、総合力が試されるコンクールなんだなという感じを受けました。将来的に全ての方がソリストになられるとは限りません。また、皆さんがコンサートマスターになられるとも限りません。そういう機会が与えられ、しかもオーケストラの中で自分がリードして弾くとか、いろいろな立ち位置を通して総合的な能力を見る意味ではとても斬新だなと思いました。

最後に、これからのお出場者へのアドバイスをお願いします。

特に今回の予選では、バッハ、前回はモーツアルト、そこで審査委員が何を聴きたいか、限られた時間内にオーケストラと一緒に演奏することが審査の大きな基準となりました。オーケストラの各パートに対する理解とか、限られた時間内に一緒に作っていくことの感覚や能力が求められていると思います。



第7回 仙台国際音楽コンクール審査結果

仙台国際音楽コンクールは、2001年仙台の開府400年を記念して創設され、3年ごとの開催で第7回を迎えました。今回は39の国と地域から、ピアノ、ヴァイオリンの両部門を合わせて過去最多の467名の申し込みがありました。

協奏曲を課題の中心に据えるという大きな特色を持ち、歴代の入賞者をはじめとして、過去の出場者の目覚ましい活躍に見られるように、本コンクールが若手音楽家の登竜門として多くの注目と期待を集めています。

<ピアノ部門>

	写真：左から
第1位 チェ・ヒョンロク	韓国
第2位 バロン・フェンウィク	アメリカ
第3位 ダリア・パルホーメンコ	ロシア
第4位 佐藤 元洋	日本
第5位 平間 今日志郎	日本
第6位 キム・ジュンヒョン	韓国



[審査委員特別賞]

[聴衆賞]	セミファイナル1日目	ツアイ・ヤンルイ 中国
	セミファイナル2日目	ダリア・パルホーメンコ ロシア
	セミファイナル3日目	ハン・キュホ 韓国

セミファイナル1日目 ツアイ・ヤンルイ 中国

セミファイナル2日目 ダリア・パルホーメンコ ロシア

セミファイナル3日目 ハン・キュホ 韓国

セミファイナル3日目 樋口 一朗 日本

<ヴァイオリン部門>

	写真：左から
第1位 該当なし	
第2位 シャノン・リー	アメリカ/カナダ
第3位 友滝 真由	日本
第4位 北田 千尋	日本
第5位 イリアス・ダビッド・モンカド	ドイツ
第6位 荒井 里桜	日本
第6位 コー・ドンフィ	韓国



[聴衆賞]

セミファイナル1日目	古澤 香理 日本
セミファイナル2日目	シャノン・リー アメリカ/カナダ
セミファイナル3日目	アンドレア・オビソ イタリア



仙台国際音楽コンクールを支える大きな力 仙台フィルハーモニー管弦楽団をもっと知ろう！【10】



仙台フィル マスコットキャラクター
(C)MIKIO IGARASHI/S.P.O

第7回仙台国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門では、セミファイナルで“出場者がコンサートマスターとして演奏する”という課題が新しく導入されました。仙台フィルハーモニー管弦楽団の三宅進さんは、チェロ・ソロ首席奏者として出場者を支え、ソロを共演する場面もありました。今回は三宅さんに、その課題を中心にお話を伺いました。

オーケストラの楽団員としてコンサートマスターの役割をお聞かせ下さい。

音を出す責任者です。もちろん指揮者がこういう音楽を作り出るよって提示してくださるんですけど、本人は音を出せません。楽団員それぞれが俺は俺はと表現したら大変なことになるから、コンサートマスターが具体的な音の方向性を我々の総意として見せてくれます。時には指揮者に対して意見を述べ、指揮者と楽団員との音の着地点を見つける、そんな役割です。

今回の新しい課題が提示されたとき、どのように感じましたか？また課題曲に臨む際、気を付けた点を教えてください。

コンクールと言ったら普通はソロじゃないですか。だけど新しい課題はアンサンブルというか、全体の音も把握する必要がある。そういう意味で音楽に対するトータルの理解を求めるんだろうなって思いましたけど、どうなんだろうと正直楽しみ半分、不安半分でしたね。出場者のやりたいことは全部生かしてあげたいし、大事にしたいニュアンスなどをできるだけ汲み取ってあげたいと思う一方で、コンサートマスターによってオーケストラ全体の音が色々変わり過ぎないように気をつけました。

コンサートマスターの席に座った出場者によって、オーケストラの音が変わったように感じましたが、楽団員としてそれを実感されましたか？

そうでしょう！それはもう、多分僕らよりお客様の方が分かっていらっしゃると思います。我々も毎回ベストを

尽くしているんだけど、統一感が急に良くなったり、もっと正直にいったら音色も良くなっちゃったりする。指揮者がいて、皆が指揮者の音楽を模索する中で、コンサートマスターが介在しオケ全体の音の方向性を示すということを、急にやらされてできる人とできない人といろいろいたので、面白かったです。



チェロ・ソロ首席奏者
三宅進さん

本コンクールの大きな支えとなっている仙台フィルですが、楽団員の一員として今後の展望は？

仙台フィルは年齢的にこれからどんどん新しい世代と入れ替わります。仙台フィルの良き伝統は守りつつ、世代間をうまく融合させて新しいことをどんどんやっていきたいですね。新しいホールも計画段階ですが、それこそホールが新しくできることによって飛躍的に変わりますから。日本を代表するオーケストラになり、世界に出られます。例えば、ボストン交響楽団は世界的に有名ですが、ボストンはニューヨークから300km離れていて、人口は70万人です。東京から300kmで人口が100万人いる仙台でもきっとできます！我々も準備を整えてより頑張っていきたいと思います。

ホームステイ受入れ部門ボランティア ホストファミリーエクスペリエンス

コンクール期間を通して、出場者を陰で支えたホームステイ受入れボランティア。その中から3名の方に、出場者との思い出を寄せてもらいました。

■ピアノ部門 ライアン・ドレッサーさん [イギリス] 受入れ (七五三木 美奈子さん)

私は今回、初めて出場者のホームステイを受入れました。彼の名はライアン・ドレッサーさん。3日間の滞在中は学校訪問ミニ・コンサート、チャレンジーズ・ライヴに出演するハードな日程でしたが、学校訪問時にピアノに合わせて校歌を歌う子供たちに感動している彼の純粋な人柄に魅了されました。我が家では和室で布団に寝て、朝ごはんはおかゆを希望するライアン。たこ焼きや牛タンなど初めての日本の味を堪能し、私の英語教室の生徒さん達ともライヴ後一緒に食事をしました。忘れられないのは、その時「どうしたらピアノがうまくなりますか」という一人の生徒さんからの問いに「まず自分の弾いている音をよく聴くこと」「練習する時に、今日はこのパートを集中して練習すると心がけること」と答えていたことです。彼の強くピアノに感動したのは彼が音楽に対しいつも真摯に向き合い、人生を賭けている、それほどの思いでコンクールに臨んでいたからなのだと感じました。

短い間でしたが、私たち家族や生徒さんたちにとってライアンとの触れ合いはとてもよい思い出になりました。娘はもっとライアンと話したかったと言っています。私は次回もホームステイの受入れをしたいし、英語が話せればいろんな人と話せるよというメッセージを周りに伝えていきたいです。そしてもちろん、ライアンをこれからもずっと心から応援し続けます。



会食での記念撮影
右から七五三木さん、ライアンさん

■ヴァイオリン部門 友滝真由さん [日本] 受入れ (佐々木 麻里奈さん)

私は3才からピアノを習い始めて、現在教えています。千葉出身ですが、主人がこちらの出身で2007年に引っ越してきました。最初は周りに親しい人もいなかったのですが、このボランティアに参加し、仲良くなつた方に英語を教えていただいたら、ホームステイについてのアドバイスを受けてきました。

第5回のコンクールではヴァイオリンのケリー・タリムさん（アメリカ出身）のホームステイをお受けし、お母様と一緒に泊まりに来られました。前回も予備審査を通過されたのですが、学校の勉強が忙しく辞退されました。今回はセミファイナルでとても素晴らしい音色を出されていたのが印象的でした。

第6回はヴァイオリンの友滝真由さんのホームステイをお受けし、その後もSNSで交流を続けていたので、今回の再挑戦も彼女の受入れを希望し、再会が実現しました。予選前の顔合わせで、彼女のお母様と私の娘と4人でお会いしました。終始なごやかな雰囲気でしたが、ドイツの先生から紹介されたヴァイオリン工房のヴァイオリンに一目ぼれし、お母様を説得して購入したとのエピソードを聞き、真由ちゃんの音楽に対する覚悟を感じました。自分がほれこんだ楽器で今回チャレンジできたことが、大きかったです。

予選のバッハの演奏は特にすばらしかったと思います。弱音がとても響いていて、バックの仙台フィルと一緒にになっていたのが、とても印象的でした。彼女自身もSNSでとても楽しく演奏できたと言っていました。

セミファイナルは課題曲が難曲で、オーケストラのコンマスはどのように審査されるのか私には予想がつかない状況でした。審査の結果発表で彼女の番号と名前が呼ばれた瞬間は一番感動的で、お母様と抱き合って喜びました。

ファイナルのブームスは、残念ながら仕事の関係で会場で聴くことができませんでしたが、3位入賞を果たし、今後も頻繁に仙台に来てほしいと思います。真由ちゃんは心根の優しい誠実な方だと思いますので、今後も末永いお付き合いが続くことを確信しています。



佐々木さん家族と友滝さん母娘
一番右：友滝さん

■ヴァイオリン部門 チャーリー・ラヴェル=ジョンズさん [イギリス] 受入れ (阿部 静代さん)

ヴァイオリン部門のセミファイナル終了後に、イギリスのチャーリー・ラヴェル=ジョンズさんを受入れました。チャーリーくんは積極的に自分で調べて、行ってみたい所があるとのこと。その希望を聞いて、お天気を見ながら山寺や松島、秋保方面などに案内することができました。仙山線で山寺へ向かう車窓からの景色にも目を見張っていた彼。天ぷら蕎麦で腹ごしらえをしてから山頂奥の院まで登り、五大堂からの景色に歓声をあげていたチャーリーくん。松島では瑞巌寺を拝観した後、福浦橋を渡って、ぐるっと島を一周歩く間、スマートフォンで動画を撮り続けていた姿の何と楽しそうだったことでしょう。

秋保では温泉に浸かった後大滝へ。そして甘党の彼は、有名な『さいち』のおはぎにもトライ。また、「イギリスで食べたものよりずっと美味しい！」という日本のお寿司、回転しているのもしていないのも堪能し、帰つてからは、イギリスのお寿司は食べられなくなってしまうのでは？家ではヴァイオリンだけではなくピアノも聴かせてくれて、音楽に包まれた一週間でした。チャーリーくんは漢字にも興味を持って、お店のメニューに載っている食材の鶏、豚、牛といった字など、教えるとすぐに覚えてしまします。日本の漫画、特に『NARUTO』が好きとのこと。初めての日本、仙台での滞在中、海や山で自然に親しみ、歴史や文化にも触れて、食も楽しみ、始終笑顔を見せていたチャーリーくんには、これらの体験を演奏家としてさらに飛躍する糧のひとつとしてもらえたたらとても嬉しく思います。



チャーリーさんと阿部さん



仙台クラシックフェスティバル 2019

コンクールボランティアがおすすめする「わたしのプラボー！」



10月4日（金）～6日（日）、いよいよ第14回となる「せんくら2019」（仙台クラシックフェスティバル）が開催されます。会場は例年通り、地下鉄沿線の仙台銀行ホール イズミティ21、日立システムズホール仙台、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4ヶ所です。今回は20名と4組のアーティストが初登場するほか、「せんくら」でしか出会えない“饗演”や0歳児も入場できるコンサートなど、8つのプログラムが目白押し。どの公演にしようか迷うあなたに、コンクールボランティアがそれぞれの日のイチオシを選んで、熱くおすすめします！

10月4日（金）のおすすめ（ボランティアO）



【22】リン兄弟が贈る フランス名曲集

18:00～18:45 仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール 1,000円

「せんくら」初日は、いつも平日の金曜日。そこで私は、お仕事がある方も駆けつけられる18:00からのイチオシ公演を選んでみました。出演は、意外にも「せんくら」初登場のリチャード・リンさん。第5回仙台国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門で優勝したリチャードさんは仙台を「最愛の町」と呼んで、優勝後たびたび「帰ってきて」くれています。今回は音楽活動と医学を両立している弟のロバートさんとの共演で、フランスの名曲4作品を聴かせてくれます。

素敵な笑顔と極上の音色に、再び出会える45分。「おかえりなさい」の気持ちを込めて、一緒にステージを盛り上げましょう！



リチャード・リン ロバート・リン

10月5日（土）のおすすめ（ボランティアI）



【31】福田進一ギター・リサイタル～マチネの終わりに～

12:00～12:45 日立システムズホール仙台 シアターホール 1,000円

クラシックギターファンはもちろん、クラシックギター演奏を聴いたことがない方にもお勧めなのが、このプログラム。小説『マチネの終わりに』に登場する名曲の「特別な演奏会」となっています。何が「特別」なのかというと、演奏されるのがあの福田進一さんなのです！権威あるパリ国際ギター・コンクールで優勝し、世界30ヶ国以上で演奏されてきた日本ギター界のゴッドファーザー的存在の方。そして、福田進一さん演奏のバッハ『チェロ組曲第3番』を聴いて感動した作家の平野啓一郎さんが、クラシックギタリストを主人公にして書いた作品が『マチネの終わりに』なんですから。

元々親交のあったお二人が、音楽でつながって生まれた小説『マチネの終わりに』。11月に公開される映画では、音楽監修とともに主演の福山雅治さんにクラシックギターの指導もされたという福田さん。そのお話を聞けるかもしれませんね。小説を読んでいくとも楽しめるプログラムですが、読んでから聴くとさらに感動が高まることまちがいなし！秋のマチネ（昼公演）でクラシックギターの演奏に心震わせてみませんか？



福田進一
(C)Yakanori Ishii

10月6日（日）のおすすめ（ボランティアS）



ピーター・リンク 清水初海（ピアノ）

【69】テューバはうたう！ピートがうたう！

15:00～15:45 日立システムズホール仙台 交流ホール 1,000円

オーケストラやプラスバンドの最低音部を受け持つテューバ。ひときわ大きく、金色に輝くこの素敵な楽器を知らない人は少ないでしょう。この公演では、仙台フィルの首席奏者として活躍するピーター・リンクさんのソロをたっぷりとお楽しみいただけます。

普段は、ベースの音を奏でたりリズムを刻んだりと音楽を支える立場にあり、縁の下の力持ちなどと称されるテューバですが、今回はメロディを奏でます。深く柔らかな、男性の低い歌声のようなテューバの音色。ピートさんは、『ヴォカリーズ』をはじめ美しい旋律の数々をどのように聴かせてくれるのでしょうか。その「歌」に酔いしれたい…！

日頃からピートさんに注目してきた方もそうでない方も、この機会をお聴き逃しなく。「せんくら」最終日は、テューバのさらなる魅力を見てしましょう。

♪編集後記♪

入賞者記念（ピアノ部門）のガラコンサートで聴衆を魅了したチエ・ヒヨンクさん（韓国・第1位）が、2020.1月開催、仙台フィルの333回定期演奏に登場予定で彼が紹ぐベートーベン、モーツартも含め待遠しいですね。（吾）

コンクールロスに浸っていたところ、本職での突然の異動命令でそれが吹き飛びました。ボランティアも仕事も、心機一転がんばります（岡）

第7回コンクール振り返り号いかがでしたか？審査のオンライン配信はいよいよ9月30日までです、どうぞお聴き逃しなく！（グ）

今回コンクールは、ピアノ・ヴァイオリン共にセミ・ファイナル・ガラの全演奏を聴くことができました。最後の演奏会の頃は2kgほど体重が減っていました。すぐに回復し

今年は、コンクールとせんくらの両方を楽しめる賛美な年。秋もクラシックを満喫しましょう。（石）

今回はピアノ部門のファイナルにどっぷりはまって「蜜蜂と遠雷」さらながらのドラマを味わったような気になりました。自分も次回までに更にインタビュースキルを上げたいです（Y・S）

コンクールの開催された年は、アッと言う間に終わってしまう、次回の開催まで如何にレベルアップ出来るのか、自問自答・・・（H.S）

今回のコンクールは会場に足を運べなかったのですが、ライブ配信を利用して自宅で視聴しました。繰り返し視聴していくと、演奏の違いはもとより、演奏者の曲に対する想いまで伝わってくるようこれには良い！と独り悦に入っていました。（W）

分かるよう分からなかった、コンサートマスターの役割。三宅さんの解説ですっきりしました。（Y）

初めてのコンクールで感動の渦に包まれた約1ヶ月間。次回の出場者インタビューに向けて韓国語を習得しようかと思う今日この頃です。（I）

今回初めて「学校訪問ミニ・コンサート」を取材させていただきましたが、演奏者も若く、聴衆も若い、将来的に音楽活動に携わるであろう子供たちが多く出てきて、大活躍する正夢を見る思いでした。（勝）

コンクール前の7-4号では編集に関われませんでしたが、今号から活動復帰できて嬉しいです。（川）

コンクールは終りましたが、出場者の皆様との交流はこれからさらに深まります。来仙コンサートが楽しみです！（石）

予選、セミファイナル、ファイナルと仕事のように通ったSIMC。この人こそはと応援する演奏家が勝ち進むのを、友と素人評価をしながら見守り過ごした時間はコンクールの醍醐味でした。（飯）

発行：第7回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

問合せ：仙台市市民文化事業団音楽振興課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: https://simc.jp